

## 郷土こぼれ話

### 地域の神様 ⑧ 八幡神社（代）

— 藤井實さん・田口清さんにお話を伺いました —

八幡神社（八幡大神社）は、代の鎮守さまです。天正8年（1580）創建されたと伝えられています。明治5年には代の村社となり、その後熊野神社・磯崎社・八坂神社・諏訪神社を合祀しました。

八幡の神は武士の統領源家の氏神であったことからして、武運の守護神として有名でした。現在では五穀豊穰の神様、また天神様は学業成就の神様として知られています。合祀されている弁財天は、豊穰や水の女神様で、人々に財や知恵を与え病や苦勞から遠ざけてくださいます。

祭事としては元旦祭、2月は天神様の勸学祭・4月の春のお日待ち・7月の天王様（八坂神社のお祭り）・10月は秋の社日祭があります。

神社の管理は役員を中心に行っています。清掃は20人の役員で協力して行います。

かつて、お祭は農事の合間の行事として、氏子・青年団員が中心となり、幟旗が掲げられ、境内には牛車を舞台にして演芸会が催される等盛大に行われたたくさんの人が集まり、にぎやかであったそうです。

50年ほど前、境内ではよく子どもたちが三角ベースの野球をして遊んでいました。また神社には、とても大きなイチョウの木がありました。あるとき雷が落ち中央部が枯れ、洞になっていました。それでも元気に生長しました。熊谷市から文化財の指定を受けましたが、その後台風の影響で折れてしまいました。現在あるイチョウの木は、折れたイチョウの根元から育ってきたものです。伝統を守りたくましく

育っていくという精神が、いま大幡中学校の校章となっています。

社殿には、いくつかの絵馬が掲げられています。「新田義貞鎌倉攻め」は歴史を語る重要なものであり、「伊勢参宮奉納絵馬」は、旅人の様子や伊勢神宮社殿の様子がとても緻密で重要だと言われています。「伊勢



参宮奉納絵馬」は、伊勢志摩サミットが行われたとき、三重県総合博物館に展示されました。郷土の文化財が遠く離れた地で紹介されていることは、とても誇りに思っています。

八幡神社を訪れると、鳥居の他にたくさんの狛犬、手水舎、石灯籠、幟立て等があり、古くからこの地で人々から護られ人々をお守りしてくださったことが解ります。地域の人々は親しみと感謝の気持ちを込めて「八幡さま」と呼んでいます。

#### 代の八幡神社

近年、代にはたくさんの住宅ができています。温故知新古く人々のまとまりの中心であった神社、八幡さまを、これからもずっと「代のあぶすま神」「村の鎮守」として、みんなでお守りしていきたいものです。お祭のとき、そうでないときも親子で、ご近所で、一人でも立ち寄って、手を合わせる。その心を地域の和として広げたいものだと思います。

文・写真：むらた ひとし

大幡公民館だより 平成29年 1月号